



「風のくら」を訪れた人の多くが感化されるのが、玄関を入ってすぐに広がる土間。「第二のリビング」として使える場所です。ストーブを入れたいと思った、という方も多いですね」と三上社長



家づくりの
展示場
訪問
Access with model house



などからのインポート素材を取り入れて再生させた住宅は、「代々受け継がれてきた実家を蘇らせた」と「念願の田舎暮らしを理想の空間で実現させたい」という大人世代に支持されてきた。

その「ハウズランド社」で近年、古民家をしのぐ勢いで増えつつあるのが新築住宅の依頼だ。「通勤などから都心部に住まざるを得ないが、どこか落ち着ける古民家のような空間で生活がしたい」と望む人が、ここ「ハウズランド社」で理想の家を手に入れている。

モデル住宅『風のくら』

古民家再生のノウハウを
新築住宅にも生かして

高い技術力とアイデアを要する古民家再生を数多く手がけてきた「ハウズランド社」。そのノウハウを生かした新築住宅には和と洋、双方の「いいもの」が同居しています。

都心部で求められる
古民家的空間

タイトルやステンドグラス、最新式のシステムを取り入れた快適なキッチン。ここが築150年を数える古民家をリノベーションした住宅だと聞けば、誰もが驚くはずだ。「風のくら」と名付けられたこの展示場を造ったのは、昭和32年に福岡で創業し、戸建住宅を中心に住宅の設計・施工を手がけてきた「ハウズランド社」。平成に入ってから2代目の三上信比古社長による古民家再生事業が特に注目を集めているビルダ―だ。日本の古民家を「和」という概念だけにとられず、フランス、スペイン